

ちょっと ブレイク しませんか?

第 29th 回 恋の闇 愛の光 [1995年 米国]



五百に満たないイソップ寓話と数十万の映画作品に共通項目・関連を見つけるジグソーパズルのような作業は、老いぼれ爺さんには骨で青色吐息だ。この連載もいつまで続けられるか判らない。

イソップ寓話集に「弁論家デマデス」と題する小話がある。

弁論家デマデスがある時アテナイで演説をしていたが、聴衆が少しも身を入れて聞かないので、ひとつイソップの寓話を語らせてほしいと頼んだ。同意が得られたので語り始めて言うには、「デルテル女神と燕つばめと鰻うなぎが道連れになった。川のほとにさしかかった時、燕は空へ飛び上がり、鰻は水に潜った」デマデスはこれだけ言って黙りこんだ。すると皆が「デルテルはどうなったんだ」と尋ねるので、答えて言うには、「お前たちに腹をたてていなさるのだ。国の問題をほったらかしにして、イソップの寓話なんぞを聞きたがるのだから」

今回紹介する作品は「恋の闇 愛の光」(1995年 米国)だ。時代は十七世紀後半の大英帝国、チャールズ二世が即位し王制が戻った。ルネサンスの影響で文芸や科学が発達し、清教徒革命で押さえ込まれていた歓楽が花開いたが、一方で伝染病が流行した時代でもあった。医師のメリヴェル(ロバート・ダウニー・ジュニア)は暇さえあれば女遊びに明け暮れていた。親友のピアースは彼の医師としての才覚を惜しんでいた。メリヴェルはふとしたことから国王に召しだされ、瀕死の愛犬ルルの治療を任される。メリヴェルは犬の命を救ったことで王の寵愛を受ける。王は彼に愛人のセリアとの結婚を命じて領地を与える。メリヴェルは王の命に反してセリアに恋してしまう。セリアの肖像を描くために王の派遣した画家がそれを見抜いて王に密告、領地を失ったメリヴェルはピアースを頼って精神病院に赴き、暗い単調な病院に音楽やダンスなどのレクリエーションを導入して新風を巻き込む。だがピアースが結核に冒され命を落とす。一方メリヴェルは入院患者のキャサリン(メグ・ライアン)と恋仲になり妊娠させて二人で病院を去る。

黒死病(ペスト)の流行が始まっており、二人は隔離された町に取り残される。キャサリンは娘のマーガレットを帝王切開で産み、そのまま帰らぬ人になった。

メリヴェルは医師の使命に目覚め、黒死病の治療に孤軍奮闘する。宮廷ではセリアが黒死病にかかり、仮面で顔を隠したメリヴェルはセリアが黒死病ではなく妊娠しており、王の愛を信じられずに悩んでいることを見抜き、彼女を励ます。ロンドンの町が猛火に包まれ、メリヴェルはマーガレットを救おうと必死で炎の中を駆け回るが、川に落ちて気を失う。下流に流された彼はかつての自分の所領に流れ着いた。そこへ王が訪れる。王はセリアを救ったこと、そしてメリヴェルが立派な医師に成長したことに免じて再び領地を彼に与えた。メリヴェルは王立病院の院長としてその再建に乗り出すのだった。

新人を迎える春は新鮮だ。この映画の原題は”Restoration”(原点復帰)だ。大村智博士は定時制高校で生徒の姿勢に刺激され、学究に目覚め熱帯病治療薬を発見し2億人の生命を救った功績により2015年ノーベル医学生理学賞に輝いた。窓際に居ても新鮮さを維持するには原点復帰が不可欠。レゾン・デートルの自己点検も心したい春だ。



かゆかわ ゆうへい
粥川 裕平
(精神科医・映画評論家)

名古屋工業大学 名誉教授
かゆかわクリニック院長